

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	初年度の外部評価を受けて、法人の理念である『自らが受けたいと思う医療と福祉の創造』を軸に、職員全員の想いをこめた理念をつくり上げ、平成19年4月より掲げています。地域『み』んなで『か』ぞくのように あ『ん』しんして暮らせませす		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の入職時には、管理者が必ずホームの理念に込めた想いと意味を職員に伝えています。また職員室に掲示し、日々のミーティングや会議等で事例等を通して振り返りを行ない、理念の共有と実践が出来るように努力しています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	見学者や入居希望者にお渡しするホームの案内パンフレットに載せて発信しています。また、ご家族やご近所には、法人や事業所の広報誌を配布して、実践の様子をお伝えしています。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の食材の買物や散歩に出かけ、地域の方々と触れ合う機会を多く持てるようにしています。お店の方も利用者の名前を覚えてくださり、声をかけてくださったり、荷物が多いと一緒に運んでくださったりしています。		ご近所さんに気軽に寄ってもらえるホームを目指しています。運営推進会議を通じて、災害時の協力体制ではご近所を含めた連絡網などの整備が必要では、とご意見をいただいたので、実現に向けて取り組みたいと思います。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りには利用者(カラオケ)・職員(踊り)共に参加しています。隣に保育園があり、行事があるときには事前に園児が招待状を持ってきてくれるので、利用者も楽しみに参加しています。また健康倶楽部たちばな(併設事業所の総称、以下施設)で納涼祭を開催して地域の方に来ていただき利用者で交流する場になっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	小学校、中学校の体験実習やボランティアの受け入れを積極的に行なっている。現在高校とも実習・ボランティアについて調整中。また、地域の方からボランティアに行きたいけれどきっかけが掴みにくいとご意見をいただき、地域の方も交えて話し合いながらボランティアの日を決めてきっかけ作りに取り組んでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価では、マニュアルの周知についての改善項目が多くありましたので、今年度はマニュアルを軸にした勉強会を行ない、理解・周知に努めています。同法人のGHで評価結果を水平展開し、一緒に改善に向けて取り組んでいます。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、確実に実施しています。運営推進会議を通じて、畑を借りられたり、ボランティアの受け入れについて具体化されたりと地域の協力を得られるようになってきました。		今後も地域の意見を謙虚に受け、それを迅速に行動につなげていくことを大切にしていきたいと思います。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は制度上の疑問点を相談したり、民生委員の見学を積極的に受け入れている程度で、日常的な連携は取れていません。		グループホームや認知症について、知ってもらうために、福祉施設体験を提案したいと思っています。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を利用の方が1名おり、活用できるように支援しています。職員が分かるように勉強会を行ないました。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人でも今年度から委員会を発足して、マニュアルを作成、使用しています。職員の言動には所長、管理者が注意しており、気になるところはその都度指導しています。周知の為に勉強会を行なっています。		マニュアルを理解して、実行できるように周知していくこと、日々の振り返りを行なうことを大切にしていきたいと思ます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>項目ごとに解りにくいところはないか、不安なところはないかお聞きしながら説明を行なっています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>その日の受持ち職員(当日受持ち)が、利用者の声を聞いて実現につなげるよう努力しています。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、家族に向けてみかん通信を作成し、送付しています。その月の行事などの写真を多く載せて、生活の様子が分かるように工夫しています。また、利用者の担当職員が、その方の様子を書いた手紙を同封し、詳しくお伝えしています。必要時は電話連絡をしています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口を明示しています。また、年1回顧客満足度の調査を行ない、言いにくいことでも書いていただくことで課題として改善していく機会を作っています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>新年度の運営方針は、職員全員で話し合っ決定しています。毎日のミーティングや月1回の部署会議を行ない、職員の意見・議論を大切に運営しています。また、年1回危険箇所について職員から意見を聞いて、改善につなげています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事や受診などに合わせて、人員を厚くしたり、半日勤務を入れるなど、臨機応変に対応しています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員がやりがいのある仕事ができるように、個人目標や日々の達成感が得られるように支援し、離職者が最小限になるように配慮しています。基本的にはユニット毎に職員を固定していますが、利用者への影響を配慮して、利用者18名に合わせて対応できるように、両ユニットで助け合いながら運営しています。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>基本マニュアル、業務マニュアル(詳細)、身体介護マニュアル、個人情報保護マニュアル、感染対策マニュアル、災害マニュアル、事故対応マニュアル、行方不明対応マニュアル、相談苦情対応マニュアルを整備。基本マニュアルに関しては、入職時に説明し、一緒に確認、随時使用しています。毎年10月に定期的な見直しを行なう事にしました。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員が段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	法人全体の教育委員会があり、モチベーションが上がるように、学ぶことを常に推進しています。新入職員のフォローアップ制度や、グループ内、法人内の研修制度もあり、職員育成に力を入れています。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人のGH連絡会と、地域の三魚沼GH連絡会があり、定期的に交流の機会を持っています。法人内の連絡会(2ヶ月に1回、6ホーム参加)では、サービスの向上を目指して現状報告や意見交換を行なっています。今年度は認知症の人と家族の会の集いをたちばなで開催しており、GH職員も参加しています。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者(たちばな所長)は、職員の声を聴くことを大切にしています。定期的に管理者、職員と面接して話を聴くと共に、職員に合わせて随時面接を行なっています。特に職員のメンタル面に気を配り、問題の早期発見・解決を心がけています。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、目標管理を軸に、自分の立てたやりがいのある目標に向かってチャレンジし、努力を続けることを大切にするように指導しています。法人で就業規則が整備されており、運営者は労務関係の研修に参加して、働きやすい職場作りを推進・実践しています。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至る前には、本人とお会いしてGHの目的を直接お話ししています。本人の想いをお聞きすることを大切にしています。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	遠方の家族とも電話で連絡を密にとり、家族の想いをお聞きすることを大切にしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用に際しては、在宅で関わっている方々を呼んで判定会議を行ない、今後の支援も含めて検討しました。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	こちらから伺って様子を見に行き、本人と話をしながらなじみの関係性を作る努力をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	みかんでは、生活の主役は本人、ということを常に意識できるように、職員の業務スケジュールを作らず、そのときの利用者のご希望、状態に職員の役割を合わせて関わっています。職員の表情に配慮し、言葉での意思疎通が難しい方にも、笑顔やスキンシップでコミュニケーションを図っています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお便りを通じて本人の様子をお伝えしたり、必要時は電話で状況説明し相談しながら、本人への支援について一緒に話し合っています。内容は記録し、職員間で共有しています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の希望で電話や手紙の支援をしています。本人と家族の関係を大切に考え、特に誕生日は両者の希望をお聞きしながら過ごし方を考えてお祝いしています。また、よいことだけでなく、認知症の症状についてもその都度お伝えして、必要時は専門医の受診をお願いしています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望で電話や手紙の支援をしています。みかん周囲にお住まいの方は少ないので、日常的にはドライブ時自宅付近を通る程度ですが、誕生日には行きたい場所や会いたい人などお聞きし、出来る限り希望が叶えられるように支援しています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気が合う方、合わない方はいて当然なので、一人ひとりの傾向と関係性を職員で共有し、利用者同士の関係が上手くいくように配慮しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	1ヶ月の入院後、状態が改善せず退居になった方との関わりの中で、家族が退居後の不安を感じていたため、病院との話し合いに同席したり、今後も必要であればいつでも相談に来てください、と話をしています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人らしい生活を大切にしています。本人とコミュニケーションを取り、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握をし、実現する事に努めています。実現に当たっては、ミーティングで話し合い、チームで検討するようにしています。		今以上に利用者一人ひとりの思いや希望をお聞きしたケアプラン作りを行なって行きたいと思います。そのためには日々、利用者とお話する中でお聞きしたことを共有し、実施できるように検討していきます。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報収集が十分でなかったため、センター方式を一部取り入れて情報収集を行なっていますが、不完全です。しかし現在、お客様の生きる目標を定め、過去ばかりにとらわれないケアをめざしています。今にも目を向けることで、活き活きした生活が出来始めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	変化する心身状態の把握を行ない、本人の出来ることを大切に、役割を見出し自信につながるようこころがけています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりが、その人らしく暮らせるように、本人の意向を大切に、家族、職員の意見を反映させた介護計画を作成しています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族、本人の希望を取り入れ、期間が終了する前に検討、見直しを行なうよう努力しています。日々の記録を基に、その時々本人の状態に合わせて随時ミーティングを行ない、現状に即した計画作成、変更をこころがけています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実践は、毎日 × で簡潔明瞭に記載し、実施できなかった理由を記録する事で評価につなげています。また、利用者一人ひとりの様子、表情、変化などを大切に日々記録し、職員は勤務開始前に必ず確認することで、情報を共有しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、通院等支援をしています。入院した場合は医療連携室の相談員と連携をとって退院への支援をしており、家族からの相談にも柔軟に対応しています。『認知症の方と家族の会』の集いを開催し、認知症の啓蒙を行なっています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	隣接する保育園を始め、学校・消防などへの働きかけや、ボランティアの日を設けて、来やすいように努力しています。民生委員に運営推進会議のメンバーになっていただき、連携をとっています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在行なっていません。		必要性がある時は、支援が出来るようにしていきます。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	高齢者虐待勉強会の講師に来ていただきました。		困難事例の相談等、積極的に連携をとっていききたいと思います。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携を重視して、入居時に同意と納得をいただいてかかりつけ医の変更を行ないました。本人・家族の希望で利用前からのかかりつけ医を受診している方もいます。他のかかりつけ医とは、受診時にみかんでの様子を詳しくお伝えし、適切な医療につながるように支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の医師が精神科の医師であり、適切な指示、助言をいただき、相談に乗っていただいています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護記録を残し、日常の健康管理につなげています。介護職員の気付きを施設の看護師に報告・相談し、日常的に健康管理や医療活用の支援をしています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は面会に行き、本人の状態を確認しています。また、医療連携室の相談員と連携をとって退院への支援をしており、家族からの相談にも柔軟に対応しています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営方針として、入居後の経過での重度者や終末期への関わりを掲げています。家族との具体的な話し合いは行なっていません。		まず、職員の力量を上げることをめざしています。同時に早い段階での話し合いを家族と行なっていきたいと思いません。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療的なことは、病院に頼らざるを得ないのが現状です。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えがある時は、家族・本人・ケア関係者等情報交換を行ない、今までの暮らしの継続が出来るように連携をとっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>職員への意識付けを確実にこなうことと、もっと利用者の希望をお聞きして自己決定の場を増やしていくことが必要だと思っています。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	特に便秘には注意しており、一人ひとりに合わせて排便チェック、便秘予防を行なっています。サインをキャッチしてトイレ誘導したり、おむつの検討も慎重に行なっています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕食後も含め、希望の時間帯で毎日の入浴が可能です。個別の入浴日も決めず、利用者の希望にそって入浴支援が出来るようにしています。皮膚状態に応じて、必要な利用者には足浴、手浴を毎日行なっています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を充実させて、夜眠れるように配慮しています。就寝時間は決まっていません。眠れないときは添い寝したり、職員が傍に寄り添って、安心していただけるようにしています。昼間でも、個別に休息出来るよう支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、洗濯、掃除、買物など、一人ひとりの得意なこと、出来ることを活かして役割を持っていただき、必ず感謝の気持ちを伝えるようにしています。ただやってもらう、のではなく、職員も一緒に行ない、楽しんで行なえるように支援しています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、本人と家族の意向を確認しています。可能な限り自分でお金を持って使うことが出来るように、日常生活自立支援事業の利用を支援している方が1名います。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買物(ホーム・個別)、外食など、積極的に外に出かけられています。下肢筋力の低下した方でも、車椅子に乗っての散歩や、リフト車に乗ってのドライブなど、なるべく全員が出かけられるように配慮しています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブや、行事への参加(運動会、花火見物、外食)など、出かける機会を大切にしています。個別の希望があるときは、出来る限り対応できるように検討、実施しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかける支援をしています。頻回な方には家族にかけて良い時間帯などを確認して対応しています。宅急便が届いた時には、必ず送り主に電話をかけて到着をお伝えし、直接本人とも話していただいています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間を規制していないので、いつでも来ていただけるようにしています。希望時は泊まることも可能です。面会室はないので、居間、本人の部屋、ソファーなど、過ごしやすい場所へのご案内を心がけています。		ご家族へのアンケートをとった中で、過ごしやすい場所の希望があったので、改善に向けて取り組みたいと思います。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1月に勉強会を開催。また法人のマニュアルが整備されたので、それに基づいて職員への意識付けを行なっています。		職員の理解に個人差があるので、現場の事例を挙げてわかりやすく伝えていきたいと思っています。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全管理上夜間の玄関施錠は行なっていますが、日中は玄関にセンサーやベルなどは設置せず、鍵をかけないことを前提にケアを行なっています。そのため離棟のひやりはっと報告が多くありますが、その方の傾向を知り、原因を考える機会として捉えています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は全体を見回せる食堂に、必ず職員1名はいるように、声をかけ合っています。夜間も食堂を中心に巡回・巡視を行ない、常に利用所の安全に配慮した体制が取れるよう努力しています。巡回・巡視は一律ではなく個別に行なっています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	常に食堂に職員がいるので、取ってしまいこまず、必要なときに使えるようにしています。内服薬、外用薬は職員が管理しているので、手の届かないところに置くよう徹底しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりとした現象を分析して、起こり得る事故を予防できるように、ひやりはっとの報告書を積極的に書くように勧めています。マニュアルを軸に、有事に対応できるよう、勉強会を実施しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設では毎年、消防署より救急法の講習に来ていただき、全職員の受講を目指しています。みかん職員室にAEDを設置しています。法人グループホームで『緊急対応マニュアル』を共有し、対応の訓練を行なっています。緊急時の対応・連絡フローを整備してあります。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練のマニュアルを整備し、定期的実施しています。年1回は施設全体で行なっています。9月のみかん避難訓練では、運営推進会議の委員にも参加していただき、意見交換を行ないました。		近隣住民、地域の消防団と連携できる体制を確立したいと思います。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状態に応じて、随時家族に説明・相談し、リスクへは早めの対応を心がけています。可能な限り精神薬を減らし、関わりを大切にすることでその人らしく生活出来ることを基本にしていますが、状況に応じて家族・医師と相談しながら対応策を話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段と違う様子が見られた場合は、職員間で情報を共有し、対応を話し合っています。必要があればGHの看護師(たちばな所長)に診てもらい、状態に応じて速やかな受診をしています。また、施設の通所介護の看護師とも連携をとっています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の一覧表を作成し、担当者を決め、他の職員と確認しながら飲んでいただくようなシステムで、間違いのないように努めています。薬の開始、中止など変更がある場合は、理由を明確に記録して周知し、その後の様子を記録に残すことで看護、医師との連携につなげています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立を管理栄養士に確認してもらう時に、便秘予防の観点でもアドバイスをもらっています。日常生活では、出来るだけ自然排便となるように、日中の活動の工夫や、水分摂取を行なっています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯みがきの声かけをして個別に支援しています。異常があるときは早期受診につなげています。口腔ケアの必要性については、勉強会を行ない、周知する努力をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは献立シートと、実際作った食事の記録を管理栄養士にチェックしてもらっています。食事・水分量は毎日確認、記録しています。好き嫌いの対応や、お粥、トロミ、刻み等の食事形態にも個別に対応し、おいしく食事を食べていただけるように配慮しています。現在食事介助が必要な方は2名です。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内で『感染対策マニュアル』があり、毎年衛生管理や感染症の勉強会を行なっています。十日町市の地域振興会が主催する研修にも参加しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日冷蔵庫を確認し、期限や食品状態、温度の確認を行ない、記録しています。買物も毎日出かけることで、震動で安全な食品が使用出来るようにしています。職員のうがい・手洗いを徹底し、調理用具の消毒等も徹底しています。インフルエンザ予防接種は、毎年説明と同意を得た上で、利用者・職員共に実施しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	複合施設の共同玄関なので、明るい雰囲気を感じ、威圧感がないように工夫しています。居間の外には縁側があり、利用者の日向ぼっこや、訪ねてくる方のお茶のみが出来るとなっています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースの飾りつけは、季節感を大切に、幼稚にならないように配慮しています。生活の音や匂いを感じることを大切に、生活感を感じられるよう、食事作り全般に参加出来るように支援しています。また、職員自体が騒音とならないように、話し方に配慮しています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルから離れた窓側にソファを置いて、利用者同士で話したりくつろげる場所を作っています。廊下奥のベンチで一人くつろぐ利用者もいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとタンスはみかんの備品ですが、その他に使っていた馴染みの物を置いていただけようお願いしています。物の少ない方でも、みかんで一緒に作った作品を飾るなど、利用者一人ひとりが安心して暮らせる部屋になるように配慮しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日温度と湿度を確認し、季節を問わず換気を行なっています。部屋は当日受持ちの職員を中心に、気温や状態に合わせて行なっています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関や居間など敢えて段差を設けることで、日常的な生活リハビリにつながるように配慮しています。また、車椅子でも生活できる環境になっています。毎年危険箇所の点検を職員で行ない、改善してきました。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱した時でも、本人の話を受け止めて、安心していただけるような言葉かけが出来るように配慮しています。利用者の目線で話し、関わることを大切にしています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	周囲に花などを植えて、水やりや草取りが出来るようにしています。随所に設けた縁側は、散歩で疲れた時に休憩したり、天気の良い日は日向ぼっこやお茶のみをしたりと活動に活かしています。		家族アンケートの中で、外にもテーブル等の面会でくつろげるスペースが欲しいというご希望があったので、検討中です。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

昼ミーティングを行ない、利用者が安全に安心して過ごしていただけるように職員で話し合い、ケアプランの変更をして常にその方に合ったケアを考えています。